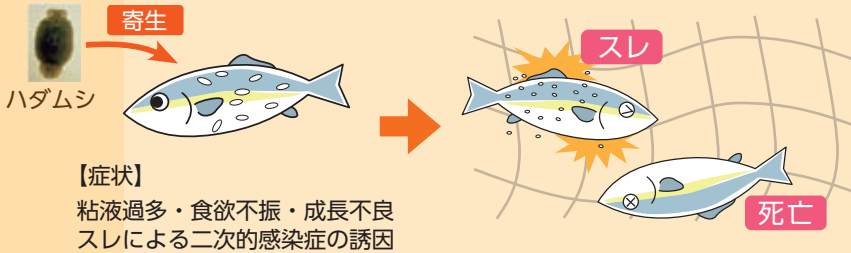


# ブリの表皮に寄生するハダムシから身を守る遺伝子の存在を初めて証明

## ハダムシによる寄生虫症



ハダムシは、魚の体表に付く寄生虫で、全長1センチほどの小判形をしています。これがブリの成長不良や細菌感染症を引き起こす原因となっており、深刻な問題となっています。ハダムシの駆除には淡水につけてハダムシを落とす以外に有効な解決手段がなく、毎年被害があります。淡水浴には多くの労力が必要なため、養殖業者の大きな負担となっています。

ハダムシはブリ養殖で深刻な問題となっています。ハダムシ寄生虫症にかかりにくい品種ができればこの負担が軽減できます。

水産総合研究センターの増養殖研究所と西海区水産研究所、東京海洋大学は、天然魚にはハダムシが付きにくいブリと付きやすいブリがいることから、両者の遺伝子を調べて、ハダムシが付きにくくなる形質に遺

伝子が関与していることを突き止めました。これは、体表に寄生虫が付きにくくなる遺伝子の存在を魚類で初めて証明したことになります。

今後は、この成果からハダムシが付きにくくなるブリを作ることが可能となります。さらに、細菌やウイルスに強いブリ、成長が早いブリなどを作る研究が進むことが期待できます。

天然魚ではハダムシ抵抗性に違いがあります



ハダムシ抵抗性あり



ハダムシ抵抗性なし

体表に寄生虫が付きにくい  
遺伝子の存在は、  
魚類で初めて証明！



遺伝子の違いを  
調べたところ…



遺伝子に違いがあることが分かりました！

ハダムシが付きにくくなるブリの品種を作ることが可能となります  
細菌やウイルスに強いブリ、成長が早いブリなどを作る研究が発展します

これらの成果をまとめた論文が、米国オンライン科学誌「PLOS ONE (プロスワン)」電子版 2013 年 6 月 4 日に掲載されました。

▶ <http://dx.plos.org/10.1371/journal.pone.0064987>

※ 本成果は、農研機構生物系特定産業技術研究支援センターのイノベーション創出基礎的研究推進事業、平成 21 年度採択課題「魚類天然資源から効率的に優良経済形質を選抜育種する技術の開発の研究」（研究代表者：荒木和男、増養殖研究所）によるものです。